

公表

事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

○事業所名	放課後等デイサービス児童クラブきりんの家		
○保護者評価実施期間	令和7年 4月 1日		～ 令和8年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	令和7年 4月 1日		～ 令和8年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 5月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりの特性や年齢に応じた支援を行っていること。	児童一人ひとりの特性や発達段階、学校生活での様子を把握し、個別支援と集団活動を組み合わせながら支援を行っている。SSTや余暇活動、生活支援等を通じて、成功体験や自己肯定感につながる関わりを意識している。また、学校や家庭との情報共有を行い、一貫した支援につながるよう努めている。	発達特性や思春期支援、強度行動障害等に関する専門研修への参加を進め、より専門性の高い支援体制づくりを行っている。また、個々の課題や将来を見据えた支援内容の充実を図っていく。
2	保護者との連携や相談対応を大切にしていること。	送迎時や連絡帳、面談等を通じて、学校後の様子や事業所内での活動状況について丁寧に共有している。保護者からの相談や困りごとについても、家庭状況を踏まえながら必要な助言や情報提供を行っている。また、学校生活や家庭生活とのつながりを意識しながら支援を行っている。	保護者向け情報提供や相談機会をさらに充実させるとともに、今後は家族支援プログラムや保護者交流の機会づくりについても検討していく。また、ICTを活用した情報共有体制強化も進めていく。
3	安心して過ごせる環境づくりと安全管理を重視していること。	視覚支援やスケジュール提示、クールダウンスペース活用等を行い、児童が安心して過ごせる環境づくりに努めている。また、ヒヤリハット共有や安全確認、感染症対策等を継続して実施し、安全面への配慮を行っている。活動内容に応じた空間調整や職員配置を工夫し、安心して活動参加できるよう支援している。	利用児童の年齢幅や特性の多様化に応じ、環境設定や活動内容のさらなる工夫を行っている。また、安全管理体制や緊急時対応訓練について継続的な見直しを行い、より安心できる支援環境づくりにつなげていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員によって支援経験や対応力に差が生じる場合があること。	利用児童の年齢層や障害特性が幅広く、対応方法も多様となるため、経験年数や知識量によって支援理解に差が生じる場合がある。また、シフト勤務により情報共有時間が限られることも要因となっている。	ケース会議や申し送り体制を強化し、支援方針や対応方法の統一を図っていく。また、外部研修や内部研修を継続的に実施し、職員全体の専門性向上につなげていく。
2	地域交流や社会参加機会が十分とは言えないこと。	安全面や送迎時間、活動時間等の制約があり、地域活動や外部交流の機会が限定される場合がある。また、児童の特性に応じた参加調整にも配慮が必要となる。	地域イベントや公共施設活用等を進め、無理のない範囲で地域交流機会を増やしていく。また、学校や地域機関との連携を強化し、社会参加支援の充実を図っていく。
3	保護者支援や将来を見据えた支援体制に課題があること。	日々の相談対応は行っているものの、保護者向け研修や家族支援プログラム等については十分な実施体制が整っていない。また、高学年児童については進路や将来に関する支援ニーズも高まっている。	職員の資格取得や専門研修参加を進め、家族支援や進路支援に関する専門性向上を図っていく。また、関係機関との連携を強化し、保護者支援や移行支援体制の充実につなげていく。